

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築（新築）2016年版
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)アキタロジ株式会社倉庫新築 新潟県新潟市北区太郎代字上往来 653番49ほか 工業専用地域、法22条地域 工場, 2018年3月 予定 9,078.60 m ² 2,397.60 m ² 2,328.34 m ² 地上1F S造 実施設計段階評価 2017年10月31日	
---	---	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{48.4}{47.4} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 建築物を長く、安心・安全に使い続けるために	2.3		バリアフリー計画	1.0
			維持管理	3.0
			設備の更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産を守るために	3.1		耐震・免震・制震・制振	3.0
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨に強いまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物外皮の熱負荷抑制	-
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			躯体材料以外でのリサイクル材の使用	3.0
			部材の再利用可能性向上への取組み	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな自然環境を次世代に引き継ぐために	2.5		生物環境の保全と創出	3.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の個性や魅力を活かしたまちづくりのために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	2.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

外装は耐候性に配慮し、維持管理を容易にすることで長期間建物が利用できるように計画した。また、既存の緑地についてはそのまま保存することで、敷地内の温熱環境へ配慮した。

CASBEE®新潟

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアルv.4.0、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟v.4.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アキタロジ株式会社倉庫新築	階数	地上1F
建設地	新潟県新潟市北区太郎代字上往来 653番49ほか	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条地域	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年10月31日
敷地面積	9,079 m ²	作成者	(株)廣瀬 浅間利洋
建築面積	2,398 m ²	確認日	2017年10月31日
延床面積	2,328 m ²	確認者	(株)廣瀬 浅間利洋



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.0</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.9</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.7</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.1</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>北側斜面の緑地を残すことで建物周囲を景観街並み、温熱環境などの優位性ももたらされている。</p>		<p>その他</p>
<p>Q1 室内環境</p> <p>事務室エリアは細かなゾーン分けに対応した空調計画とし必要に応じた冷暖房を可能とした。倉庫に窓は無いが出入口(OS-1)を大きく、複数カ所設置することで営業中の明るさへ配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>倉庫部分は内部梁下まで7.0mとすることで将来の運用へ柔軟に対応可能なゆとりを持った階高さとした。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>敷地北側斜面が立地上の制約ではあるが既に緑地や中木があるので保存することとした。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>評価外ではあるが屋根、外壁には断熱材を施し事務所エリアは複層硝子による熱負荷への配慮とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>鉄骨造とし建設にかかる使用材料の抑制に努め、温暖化への影響に配慮した断熱材、冷媒の採用。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>周囲への風通しや既存緑地や中木を残すことで敷地外への温熱環境へ配慮した</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される